

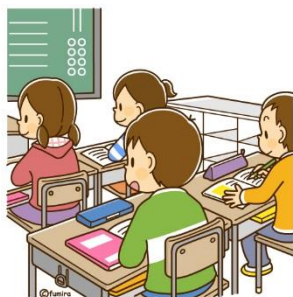
令和元年度 全国学力・学習状況調査結果について

和寒町教育委員会

文部科学省は7月31日、本年度全国学力・学習状況調査の結果を公表しました。同調査は、国語と算数・数学において、従来の主に知識に関する「A問題」と主に活用に関する「B問題」を一体的に問う問題に変更し、新たに中学校英語を加えました。学習状況調査は、生活習慣や授業の理解度、指導状況などを把握するため、児童生徒、小中学校双方を対象に行いました。

それによると、道内の公立小中学生の平均正答率は、全教科において全国を下回り、学習状況においても家庭学習が依然少ないという結果となりました。

本町の小中学校の結果は、全国平均と比較すると、小学校では国語で全国を上回り、小中全ての教科で無回答率が全国を上回ったのが特徴的となりました。詳細は、以下の通りとなっています。



教科	国語	算数	
和寒小学校	上回っている	全道と同値	

教科	国語	数学	英語
和寒中学校	下回っている	下回っている	下回っている

【国語】

小学校国語については、全国を上回りました。特に「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域では平均正答率が全国を上回り、「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域では、全国をやや下回りました。

一方中学校国語については、全道・全国を下回りました。特に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域では、全国を上回り、他の領域では全道・全国を下回りました。特徴的なことは、各校とも無回答率が全国を上回り、最後まで問題に取り組み解答しようとしていた様子がうかがえました。

【算数・数学】

小学校算数については、全国を下回り全道と同値になりました。特に、「数と計算」領域では全道を上回り、「量と測定」領域では全道と同値になりましたが、「図形」「数量関係」領域では全道を下回りました。

一方中学校数学については、領域を含めて全道・全国を下回りましたが、領域別において「資料の活用」が全国に最も近くなっていました。特徴的なことは、各校とも無回答率が全国を上回り、最後まで問題に取り組み解答しようとしていた様子がうかがえました。

【英語】

中学校英語については、領域を含めて全道・全国を下回りましたが、領域別において「聞くこと」が全国に最も近くなっていました。

【児童質問紙・生徒質問紙】

小学校児童質問紙では、「国語の授業の内容はよく分かる」「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と回答した児童の割合が全国を上回りました。しかし、読書が好きな割に、「学校の授業時間以外の読書の時間」が少ない傾向にありました。

中学校生徒質問紙では、「国語の授業の内容はよく分かる」「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した生徒の割合が全国を上回りました。しかし、読書があまり好きではなく、家で、自分で計画を立てて勉強したり、学校の授業時間以外の勉強や読書の時間が少ない傾向にありました。また、新聞に至っては、ほとんど読まれていない結果となりました。

この調査結果を受けて、各学校ではさらに分析を進め、授業改善や放課後・行間学習等の学力向上に向けた取組の改善を図っていくこととしています。また、児童生徒の生活習慣や学習習慣等を見直し、改善に向けて家庭と一体となった取組の展開を急ぐこととしています。

(調査結果は道教委のホームページでも紹介し、和寒町の概要も掲載されています。)